

滝日記

「滝ッズ」大集合！ 第四回 川上村御船の滝 楠田行展

皆さん、こんにちは。楠田です。滝日記書いてるんですが、最近は滝に全然行けていません。理由は唯一つ。近場ではもう、独りで訪れることができる滝がほとんど残っていないということです。自然を舐めちゃいけない。帰って来れなくなったら洒落になりません。滝ッズたちよ、決起せよ。そしてボクと一緒に滝へ行こう！

というわけで今回は昨年の思い出です。友人の※THE ISHIKURAと共に訪れた、奈良県吉野郡川上村の「御船(みふね)の滝」を紹介します。この滝は無茶苦茶素晴らしかった！何度でも訪れてみたい、そんな気持ちにさせてくれる滝でした。

滝の入り口から痛快にウキウキしながら遊歩道を歩く。沢の水は爽やかに透き通り、大変冷たい。THE ISHIKURAとタオルを水に浸し、顔を拭く。いやー、冷たくて気持ちよかったです。肌をプリプリに保水しながら浅い沢を横目に登って行く。5分くらい歩いて滝がじわじわ姿を現してきました。そして、林道が開ける。

この滝は美しい。否、美しすぎる。岩の造形が見事で滝の中段から下段にかけて隆起している。そうすると、どうなるか。滝の落ち口から降ってくる水が滝の真ん中の岩に当たり、当たった水が飛沫(しぶき)となって下段へ広がって落ちる。途中で水が分岐するという、分岐瀑。その典型です。少量の水が風になびきながら落ち、涼しい空気を観る者に届ける。優しい感じの滝でした。御船の滝の滝壺は大変浅く、親しみが感じられる。岩の真近くまで接近できたので、上を見上げながら撮った写真を掲載しました。また、滝見台もあり、落ち口から上段、中段、下段と全貌を少し離れて、眺めることができます。この滝見台で吸うタバコが美味かったですねえ。(携帯灰皿必携！)緑と滝がいい感じでマッチしてて、「うあー、滝来たなあッ。」とつくづく感じました。フト横を見るとTHE ISHIKURAも恍惚の表情でした。また、冬期の氷瀑した姿は文殊菩薩を現すとも言われており、知恵を授ける滝という縁起もあります。「御船」の由来は、滝のある谷の名前である船ヤ谷から命名されたという説と、美しい船ヤ谷の滝から「美船」となり「御船」に置き換えられたという説があるそうです。川上村は素晴らしい滝の宝庫で、次回訪問できる日がとても楽しみです。滝行ってえ！

※THE ISHIKURA・・・ボクが彼の存在を知るのは奈良県立K高校の1年春。奴が学校指定の鞆にUKのWARPLEーベルの紫のバッヂを付けていた事がきっかけでした。当時からtoo shyなボクは声をかけられず、「こいつ、何か『少年アンベ』の스가オくんみたいやなあ。眼つきのエッジ行き過ぎやろう。こええなあ。」と思っていたのでした。そうこうまごついているうちに時は流れ、一年も終わりに近づく時、ボクのクラスメート原が彼と同じ中学の出身であることに気づき、「そのバッヂ、『テクノ専門学校(SRCS 7335)』の付録やんね・・・」とビックつきながら声をかけた瞬間から二人は接近する。その後、写真部兼放送部員だったTHE ISHIKURAの導きにより、放送部に入部しお昼DJ。7kmある道のりを自転車で行き来しあったり、お互いの持つ音源交換、生駒山での野外パーティにも参加。高校卒業後、彼は国立M大工学部に進学。ボクも代々木ゼミナールに無事進学。後にも先にも高校の頃に出逢って今も交流が続くのは彼だけです。福本伸行著『賭博破壊嬢 カイジ』の伊藤カイジ似。

[御船の滝]

交通:

電車・バス...

近鉄線大和上市駅より奈良交通バス

「湯盛温泉杉の湯」行で終点

→乗換「武木」で下車

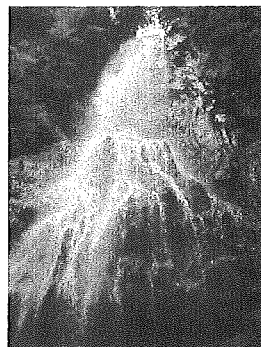
→徒歩75分で御船の滝入口→徒歩5分

車...

道の駅「杉の湯川上」より

国道169号直進左折井光、

30分で御船の滝登山口。徒歩5分

楠田行展Blog <http://blog.livedoor.jp/electroboat808/>

next collective

次回collectiveは

2005年07月10日(日)を予定しています。

また夏にお会いしましょう！

<http://www.sound.jp/collective/>

collective全体について、またこのpress collectiveについてのご意見・ご感想が僕達の最大の活力源です！皆でもっと楽しいパーティを作りませんか？ぜひ上記WEBサイトから皆さんの声を聞かせてください！

pick up of the issue

春の新連載スペシャル！

極私的ハウス咄 — ダンスミュージックへの誘い

press collective

第1回 Francois K さん

Itaru Wakui

うらかな春の日差しが心地よい今日この頃、皆さん素敵なお音楽ライフを過ごしていらっしゃいますか？

先日『PHONO』というフリーペーパーでHARVEYというDJのインタビューを読んでたら、以下のような件がありました。

——何がハウスの定義か。さまざまな音楽をプレイしてきたあなたにとって難しい質問かもしれませんが、敢えてその定義を訊かせてください。

4/4ビートで110～130BPM。
一般的なイメージで言えば、これがハウスってことになるかもしれない。でもさ、これって1000年も前からあった音楽文化なんだよ。アフリカのドラム・ミュージックなんてその最たるものだ。この論理でいくと、ハウスは既に1000年に完成されていたということになるよね。

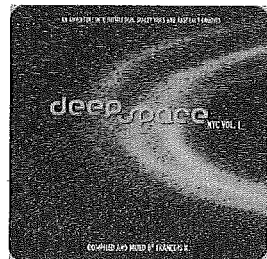
それはテクノについても同じことが言える。電子楽器を使った音楽が「テクノ」を示唆するのだとしたら、それも過去にアマデウスがやっていたことだ。とにかく「定義」という言葉程、厄介なものはない。インタビューなんかでそういう話しになったとき——何がハウスで何がディスコかって、他の人が正しく理解する為の説明するのは難しい。(以下略)

まさにその通り！いざ説明したり定義するとするとすごく難しい。でもハウスやテクノやディスコなんかのダンス・ミュージックは楽しい音楽なので、チャンスなく聴き逃している人がいたらそれはすごく残念だ。なので、今回から紹介がてら文章を綴ってみたいと思います。

というわけで、どんな話からスタートしようかと迷いましたが、定義なんなのも意味あることとは思えないし、かといってあまり名案も浮かばないので手身近に最近買ったCDから話を始めてみることにしましょう。

さてそのCDはといいますと、『deep space NYC Vol.1』COMPILED AND MIXED BY FRANCOIS Kというやつです。

これはフランソワ・ケヴォキアン (Francois Kevorkian) というキャリアウン十年を数えるおっさんが出したミックスCDです。ほくはこのフランソワというひとのDJとか作る曲がすごく好きなので、ちょっと最良目な紹介になるかも知れません。



『deep space NYC Vol.1』

以前はNYでBody&SOULというパーティーをダニー・クリヴィット (DANNY KRIVIT)、ジョー・クローゼル (JOE CLAUSSEL) といった人たちと開催していたのですが、残念ながらそのパーティーが終了してしまい、あらたに始めたのがdeep spaceというパーティー。で、このミックスCDはテクノとダブを中心にしたそのパーティーのコンセプトを教えてくれる内容です。

フランソワという人のミックスCDは2枚持っており、これが3枚目のミックスCDになるのですが、今回はインスト・テクノ・トラックを繋ぎながらダブ処理を施したレゲエを挟みこんで適度なグルーブを作り出しており、独特の味わいある1枚になっています。

前2枚のCDはそれぞれ『essential mix』『live at sonar』と題されたもので、前者はフランソワがその長いキャリアなかで初めて出したミックスCDということもあり、新旧織り交ぜ、速い曲からゆったりとした曲までの多彩な選曲で、さすがの貫禄を見せた1枚としていまでも愛聴している1枚です。また後者はというと、文字通りのライブ録音であり、ソナー (sonar) というエレクトリック音楽最大のイベントにてDJしたさいに録音されたものです。これはフランソワ自身がターニングポイントになったDJだと語るように、『essential mix』のような選曲とは異なり、テクノ・トラックをガンガンかけるという内容ですが、これもまた愛聴しております。



『essential mix』

『deep space NYC Vol.1』はどちらかというと『live at sonar』に近いのですが、『live at sonar』のようにライブでの高揚感が激しすぎず、適度に激しいといった感じで、そこがまたカッコイイのです。齢を重ねるにつれますます意気盛んな様子が伝わり、それもまたぼくがフランソワにヤられたなあと思わされる一面であります。



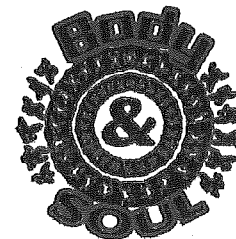
フランソワ・ケヴォキアン

古くはPreludeというレーベルでエンジニアをし、華やかなヴォーカルものに奇天烈なダブという調味料を施し、当時の独特なディスコサウンド群の一要を担ったり、また87年からはAxis Studioというスタジオの運営したりしています。

ちなみにこのアクシススタジオ、ゲイシャ・ガールズ (坂本龍一プロデューサーによるダウントウンの別名) が録音したスタジオです。ゲイシャ・ガールズには教授の他にテイトウワや富家哲がバックメンバーとして名を連ね、リミックスにはMasters At Workのケニー・ドーブ (Kenny Dope) が参加しており、なかなか面白い企画です。中古なら激安で見つかります。

で、話を戻しまして、フランソワは94年に自らのレーベルWAVEを設立し、96年7月からは先ほど触れましたBody&SOULというパーティーを始めるようになったのです。これは日曜の昼間というクラブにとっては盲点ともいえるタイミングにて催されたパーティーで、アンダーグラウンドなクラブにとってもひとつの画期となるようなパーティーだったのではないかと思います。このBody&SOULでよくかかっていた曲はWAVEからコンピレーションとしてCDがVol.4までリリースされてるのですが、ソウルフルな歌モノやパーカッシブなトラックものがたくさん収録されており、deep spaceとは違った雰囲気を実感できると思います。Body&SOUL人気がもともと盛り上がりつつあったと思われる2000年前後には、レコード屋にいくと必ず「B&S Play！」というPOPが貼ってある新譜が目に入ったものです。

NYでのレギュラーパーティーが終わってしまったにもかかわらず、ここ3年ほどは毎年ゴールデンウィークにはフランソワ・ジョー・ダニーの3人のDJが東京に集まり、ミラクルな時間を届けてくれています。残念ながら参加したことがないのであくまで聞いた話や読んだ情報ですが、それでも楽しさは伝わりますし、ぜひ参加を果したいと祈念してもいます。



Body&SOUL

Body&SOULは、それまでクラブが週末の夜の解放感を供給してくれる場として機能していたのですが、決してその時間だけが特権的に解放感を与えられる時間ではないということ、パーティーの成功によって証明したのでは無いかと思います。もちろん夜中のパーティーが無くなつては困りますが、少なくとも共存できることを示してくれたのではないのでしょうか。

というわけで、そんなキャリアを歩んできたフランソワがBody&SOULの後に始めたのがdeep spaceというパーティーで、そのライブ感をパッケージしたのが今回紹介したCDという訳です。

全体的にいえば淡々とした感じというのがこのCDの特徴なので、ディスコやガラージといったコレクティブでよくかける曲は今回紹介したCDと異なる点もありますが、異分野なのかというと、決してそうではなく、長く活動続ける第一線の現場感がたっぷり詰まっています。難しさはありませんので、進行形のハウスの一端を知るには恰好の1枚ですよ。

<http://www.wavemusic.com/>
<http://www.bodyandsoul-nyc.com/>
<http://www.deepspacencyc.com/>